



9月27日○奥浦小・中・市民運動会○奥中ソーラン

島のひかり ホームページアドレス  
<http://lifeaidgoto.jp/cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会  
 広報委員会  
 五島市平蔵町2716  
 TEL 0959-00072  
 印刷・(株)才津印刷所

## 入院

主任司祭 岩崎 晋吾

「父が入院しました。時間がありませんか？」昨日、このような電話をいただき、教えていただいた病室へと向かいました。

信者の方の入院の知らせは、これまでも何回も受けてきました。全ては突然の出来事です。司祭が呼ばれるということは、深刻な容態だと思ひ病室へ向かいます。

これまでに、深刻でもないのに緊急に呼ばれたのは一度だけです。その一度というのは、私の弟が怪我で手術をすることになった時。呼んだのは心配した母親でした。生死に全くかわるような手術でもなかったのですが、母親が「秘跡をしてほしい」と願うので、必要がないと思ひながらも病者の秘跡の準備を始めました。すると突然、弟が叫び声をあげて「やめてくれ、おいはまだ死なん！」と懸命に拒否したことを覚えています。

人生終わりの秘跡と勘違いしていたようでしたが、こちらは『一度くらい死ぬ気で生きてみる』と思ひ、嫌がるこの男に秘跡の油をたっぷり塗って差しあげました。

死ぬ気、生きる気などの生命力の根源となる心の動きというのは、普段の生活の中においてはなかなか起こらない気持ちです。冒頭で入院なさって深刻な容態になられた方こそ、真に死ぬ気、生きる気の中にある方です。

「入院」という言葉は、もともと仏教語で老病死、という誰も避ける事の出来ない課題を正面から引き受け、その苦悩を超越するために出家して寺院に入る事を言います。病院に入ることも、これまで考えることを避けてきた病老死の問題を突き付けられることになり、人生の大きな悟りの時を迎える機会となるのでしょうか。

思えば、お寺の作務衣と病院の病衣は、どことなく似ているようにも思えます。

## 下五島地区研修会

秋晴れの日差しが強い九月十三日、十三時より福江教会に於いて研修会が開催された。この日は、下五島の各教会より多くの信徒が詰めかけ、聖堂は九割程となった。

この研修会のテーマは、「被爆マリア像を迎え、平和を祈り戦後七〇年司教団メッセージ」を学ぶ、でした。

第一部「被爆マリア」とともに平和を祈る。浦上の信徒が先頭に被爆マリアを抱き、高見大司教様と福江教会主任中村神父



様が、聖歌の流れるなか入堂。被爆のマリアは祭壇右側に捧げられた。ロザリオの三連をそれぞれの意向にそって。

一連は、原爆殉難者・戦没者の安息を祈り、世界各地の紛争の終結と世界平和を願う。

二連は、世界各地で平和のために働いている人々のために。

三連は、各自が平和の使徒となるように。

第二部は、司教団メッセージを学ぶ。

過去を振り返る。戦争・被爆体験者の証言。浦上教会の深堀さんの朗読があり、キリスト教の迫害、戦争の体験、帰国してからの原爆の悲惨さ、終戦になってからの貧困生活など。

今、平和な日本に生まれ育った私達に考えさせられる貴重な証言でした。

次に、高見大司教様による、未来にむけて「戦後七〇年、司教団平和メッセージ」の小冊子をもとに解説がなされた。

一、教会は人間のいのちと尊厳



被爆体験を語る深堀さん

に関する問題に沈黙できない。

二、戦争放棄への決意。

三、日本の教会の平和に対する使命。

四、歴史認識と集団的自衛権行使容認などの問題。

五、今の世界情勢の深刻な危機の中で。

最後に言いたい事は、「目標はつねに平和でなければなりません。すべてをさしおいて、平和が追及され、平和が保持されねばなりません。過去の過ち、暴力と破壊とに満ちた過去の過ちを、繰り返ししてはなりません。」

最後に本村義則副議長の感謝のことばで閉会となった。(編集部)

江上天主堂 訪問記 木口重憲

静かな畔からなだらかに上る道の向こうに、大きなタブの木々の隙間から、淡いクリーム色が顔をのぞかせている。

小高い丘に立つ教会は、ひんやりとした清浄な空気に包まれて、かわいらしさと荘厳さの微妙なアンバランスを上手に成り立たせていた。

長男と二人、足を教会に踏み入れ内部に目をうつすと、外で感じた“少しの小ささ”が天井のリーブヴォールト天井や重厚な柱達の印象の為か、ちょっとした目眩めまいを起こさせる様なダイナミックさを感じる。

教会守りの説明によると、柱は木目書きと呼ばれ、手描きだという事。教会全体の空間が、人を優しく包み込む温かさに満ち溢れ、教会建築の父“鉄川与助”の精神が、みごとに反映されている。

**長崎**  
**平和学習**  
**堅信組**

八月九、十、十一日、堅信組の準備の学びの一環である平和学習を長崎で行いました。今年は、すでに受堅した中学生三年生を含む五名で、長崎の平和祈願祭、信徒発見一五〇周年記念に、浦上の信徒たちが信徒発見をした福岡教会の今村教会への巡礼、大刀洗平和記念館、それから永井博士の如己堂と記念館の見学を行いました。以下は子供たちの感想文です。

**一年 入口駿一郎**

平和学習で、長崎に行きました。たいまつ行列で、平和公園まで行きました。あと、今村教会に行きました。昔のつくりで昔の人も技術があるんだと思いました。今村教会は、重要文化財に指定されています。この平和学習で、教会の歴史にふれることができうれしかったです。



中一 鍋内 優海

平和学習に行って特に心に残った、勉強になった事は、二日目の大刀洗平和記念館見学です。七十年以上前から起こっていた戦争で使われていた戦闘機、兵士の所持品などが展示されていていました。戦争がどれだけ人を殺したか、子供達をどれだけ苦しめたかがよく分かった一日でした。これから日本を担う人達の手で戦争などを起こさない



で平和な世の中を作っていけるようにぼく達もがんばっていきます。

**二年 入口 舞桜**

私たちは、九日〜十一日までの三日間で平和学習をしてきました。まず、一日目に浦上教会でミサをした後、平和公園までのたいまつ行列に参加しました。たいまつが熱くて大変でした。二日目に、中町教会でのミサ後、福岡に行き、今村教会を巡礼しました。教会がきれいで大きかったので、感動しました。その後、大刀洗平和記念館を見学しました。命の大切さを改めて考えることが出来ました。

**ありがとう**

**三年 鍋内 颯太**  
 八月九日から三日間、僕等は平和学習に行きました。  
 一日目のたいまつ行列では、夜なのに、たくさんの方がたいまつをもっていて、また、外国人もいて、「平和を願うのは、皆一緒なんだな」と思いました。さらに、永井博士記念館にも行き、平和について考えることができました。

- これからは、今回学んだ平和を心に持って生きたいです。
- 長崎市 大司教館付修道院様
  - 佐世保市 坂本 砂子様
  - 姫路市 高井 タキ子様
  - 浜 泊 江口 タネ様
  - 長崎市 子供一同様
  - 長崎市 長崎純心聖母会 Sr 濱崎 久美様
  - 名古屋市 神言会ハウス 濱口吉降神父様
  - 浦 頭 木口 タケ様
  - 茨城県 濱崎 繁喜様
  - 子供一同様

# 小学生合同黙想会 福江教会にて

2015年8月27日

## はじめに

シスター 藤原

七月二十七日、下五島地区教会小学生黙想会が福江教会で行われました。九時より受付、オリエンテーション、朝の祈りで始まりました。黙想会のテーマは、『引き継ごう神様の教えを守った人たちにならう』ということ、まず初めに巡礼観光ガイドとして、木口利光さんのお話がありました。外国宣教師たちによって、キリスト教が伝えられた歴史について、五島のキリシタンたちが守り伝えた信仰と各地の教会を信仰の遺産として、これからも大切に引き継いでいきたいと思います。丁寧話して下さいました。

その後は、信徒会館へ移動して各教会の発表から始まりました。先人たちから受け継いでいる信仰として、殉教者、ルルド、各教会の紹介などについて、前もって準備してきた絵や紙芝居などの作品の内容を発表しました。浦頭教会の子ども達は、別紙面の内容について、少々緊張しながらも一人ひとりが上手に

発表する事ができました。

発表が終わったところで、お楽しみの昼食の時間です。午前中カレールライス作りに専念して下さった岩崎神父様、中村神父様、福江教会女性部の方々のおもてなしで、おいしいカレールイスをいただきました。感謝！

昼食後は午前中、発表した内容の問いについて、それぞれが答えを見つげるために展示された作品の紙上ミニ巡礼をしました。子どもたちが自分達で見て、聞いて答えを書きとめ、全員が終わって答えを合わせ、理解を深める作業を楽しみながら行いました。その後は、レクレーション、ゆるしの秘跡、感想文書き、最後に感謝のミサで黙想会を無事終了しました。

この黙想会を通して信仰の大切さを子どもたちなりに感じとり、これからも神様、そして多くの方々の愛の中で、より心豊かに成長していく事ができますようにと願いと祈りを込めて、見守り続けていきたいと思えました。



## 浦頭教会

一九六八年（昭和四十三年）に建てられました。

一八八八年、初代教会が建てられた。

一九五〇年、増改築を行い正式に祝別された。

一九六八年、浦頭小教区が誕生しました。

二〇一四年、浦頭小教区四十五年を迎えました。

小教区四十五年の歩みは、さまざまな苦難を共にした歴代主任神父様方と教会役員さん、信徒一同の尊い汗がぎざまれています。



二〇一五年現在の浦頭小教区の数は、四二〇人です。

## 半泊教会（聖パトリック）

一九二二年（大正十一年）に建てられました。

信者たちは貧しい生活の中で、山から建築材料を運んだりしながら、約三カ年をかけて教会を建てました。アイルランドからの寄付を頂いた事から、アイルランド国

の守護の聖人、聖パトリックに捧げられた教会です。大工は鉄川与助。

その五年後、信者たちは台風の被害から守るため、海岸の石を集めて暴風石垣を築きました。

その後も大掛かりな修復工事がされ、敷地の境にブロック壁を設置しました。



## 宮原教会（聖ジュリアン）

一八八五年（明治十八年）に建てられました。

最初にペルー神父様によって巡回ミサが奉げられていました。長い間隠れて信仰を守っていたキリシタンは、神父様によって、数十人が洗礼を受けたと伝えられています。



一九七一年（昭和六年）信者たちは、資金を集め、改築工事をして、今の教会となりました。

## 小学生合同黙想会 福江教会にて

2015年8月27日

## 堂崎教会(日本二十六聖人)

一九〇八年(明治四十一年)に建てられました。(現在の堂崎天主堂)

一八八〇年、初代堂崎天主堂が建てられました。(初代マルマン神父様)

一九〇八年、ペルー神父様の指導により、信者たちが資金を出し合い奉仕しながら、煉



瓦造りの教会堂を建てました。

一九六九年、堂崎小教区は廃止され巡回教会となっていて、通常はキリシタン関係資料等が展示されています。

堂崎教会は五島で最初の教会として建てられ、信仰の迫害を経て信仰の復活のシンボルとして、今も大切にされています。

二〇〇八年、堂崎天主堂一〇〇周年記念祭が行われました。

## マルマン・ペルー神父様について

キリスト教が自由になってから、下五島の世話をするために送られたのは、マルマン神

父様でした。隠れている信徒たちの発見につとめ、まず、大泊に最初の聖堂が建てられました。マルマン神父様は、生活が貧しく子どもの孤児、病人の多いこの島で、少しでも役に立つ事を考えました。不幸な子どもたちの為に大泊の民家を借りて、養育を始めました。これが、現在の児童養護施設奥浦慈恵院の始まりで、この仕事に協力奉仕した女性達、今日の奥浦修道院のシスター達によって引き継がれています。マルマン神父様の後をついで、五島に来られた神父様は、ペルー神父様でした。神父様も子どもの養育に力をいれ、『堂崎養育院』から赤瀬の旧奥浦慈恵院に移転しました。その跡地に現在の堂崎天主堂を建てました。また信者達は、先祖から伝えられてきた大切な信仰を、子ども達や孫達に伝えようと考へ『伝道学校』を建てました。

このようにして、マルマン神父様、ペルー神父様は堂崎の地を中心として、下五島教会の信者達を導き、信仰のいしずえを築きました。



## 大村藩キリシタンの五島移住

江戸時代の終わりごろ、五島には信仰を守るために長崎の外海から、約三千年間に三千人がやってきました。一七九七年十一月、まず最初に百八人が奥浦の六方の浜に上陸し、奥浦平蔵、大浜、黒蔵、岐宿橋原に移り住みました。その後度々、長崎からやって来て、奥浦では、浦頭、大泊、堂崎、浜泊、嵯峨瀬、宮原、半泊、間伏に住み着きました。(≒地図参照) こうして現在の奥浦地区となり、浦頭小教区が誕生しました。しかし、そのころ五島のあちこちでも、厳しい迫害は続いています。信者達はその苦難を耐え抜き、命がけて信仰を守り続け、現代の私達に信仰の宝を残して下さいました。

# 新しいミサ典礼 について

二〇一五年十一月二十九日の待降節第一主日より新しい「ローマーミサ典礼書総則」に基づくミサ典礼の変更の実施が行われます。

浦頭教会では、九月と十月の二回の説明会を行い、実施に向けての準備をしていくことになっています。

今回の変更の導入の機会に次の三点を大切にしてください。以下のことでした。

①教会の典礼を大切にし、ミサを深く味わい美しく執行する精神を育む。

②共同体全体で、現在のミサの典礼を見直し、ミサについて学ぶ機会とするために。

③自己流、〇〇教会流のミサにならないように。

世界の教会が規則で縛られない豊かで愛のあふれるミサ典礼になる事を祈りたいものです。

## 中学生 合同黙想会

八月二十四日、久賀島におきまして「先人達の信仰を学ぶ」を目的に行なわれました。以上は堅信組の感想です。

堅信組 一年 鍋内 優海

黙想会で久賀の牢屋の窄に行きました。キリスト教迫害でたくさんの方が苦しんで死んでいても信仰を捨てなかったからその信仰を大切にし、ミサの時もしっかり祈っていききたいです。

堅信組 一年 入口駿一朗

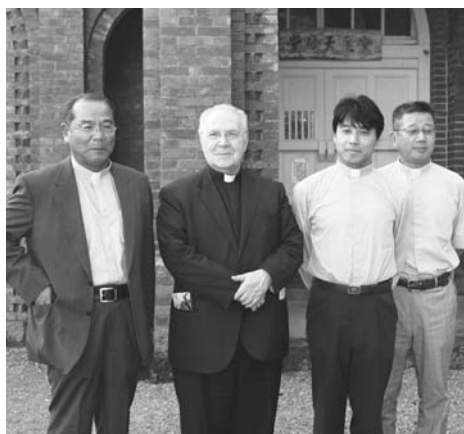
黙想会で牢屋の窄に行きました。約二百人が迫害を受けていて、その中に子どももいたので迫害はひさんだと思いました。その人達のためにもミサなど、祈りをしっかりささげたいです。

堅信組 二年 入口 舞桜

私たちは、八月二十四日の黙想会で久賀島に行きました。ま

ず、牢屋の窄を訪問しました。その後、浜脇教会まで歩きました。班で旗を作り、仲良くなりしました。今回、学んだことを心に刻み、ミサに望みたいのです。

## バチカン大使 堂崎訪問



パリに本部を置くユネスコ（国際連合教育科学文化機関）

のフランシスコ・フォロバチカン大使が、九月八日（金）堂崎教会を訪れた。「長崎教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録を目指し運動を進める五島市にとり、バチカンの後押し

は何より心強い力となる。フォロ大使にとっても、明治以降における五島キリシタン復活の聖地として、堂崎訪問を希望しての来島でもあった。

## おたより

主に平和

島のひかり、いつもありがとうございます。心から感謝申し上げます。神父様をはじめ皆様方の御活躍の様子が感じられます。離れていても何となく身近に感じ感謝で一杯です。

皆様方の御発展をお祈り致します。今後ともよろしくお願致します。教会のため信徒の方々のため御活躍をお祈り致します。

天草市 大江修道院

Sr 赤尾スミエ

秘

跡

《帰天》

○カカロ 浦 稔（六六歳）

（八月三十一日）

シスタークララ

濱崎 久美

銀祝

二〇一五年で目出たく二十五周年を迎えることが出来ました。沢山のお祈りと励ましをいただき感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。

純心聖母会

一九八〇年四月 志願者

一九八六年四月 アスピラント

一九八八年四月 ポストラント

十一月 着衣

一九九〇年十一月 初誓願宣立

一九九八年二月 終生誓願宣立

二〇一五年 銀祝

現在、純心大学人文学部・児童保育学科助教

浦頭教会の信徒の皆様の上に神様の恵みが豊かにありますように、お祈りしています。

感謝のうちに。

## 神羊館防水工事

去年から神羊館二階ベランダ下や、階段下でコンクリート片が落下するようになっていた。原因は、コンクリート内部にある鉄筋に水が触れ、腐食が進んだものと考えられる。

島のひかり合本号で調べると神羊館落成は、当時、野下千年主任司祭がおられた昭和五十四年十二月十六日。もう少しで三十六年になるうとしています。九月上旬より、ベランダ・階段部の防水処理工事を終え、これから腐食が止まるか確認するという事です。何かと教会で催しがある

時の場所となる神羊館、長く使用していけばと思いません。



施工完了 バルコニー部南より

## 奉仕作業を終えて

崎瀨静代

八月二日、十時より教会の内外の清掃を各班にそれぞれ分担され行われました。毎週清掃活動は行われていますが、時間や人数にも限りがあり、充分に行う事は難しいのではと思われます。そんな中、女性会では聖堂内のカーテン洗いを活動に挙げておりましたので、実施させて頂きました。手伝って頂けるかとても不安でしたが、その思いを消し去るように「私が洗ってきましょうか」の声にどんなに救われた事でしょう。その間、窓も綺麗に拭かれ、洗ってきたカーテンを下げて無事終了しました。何を行うかや実際に動くとした時、決して一人の力では難しく、みなさんの協力が必要です。外回りも綺麗に草が刈られ、すっきりとした中に教会の姿が現われます。神様もきっと今日のみなさんの事を見ていた下さっていると思います。「ありがとう」と…感謝の内に

帰天

故カロロ 瀨口吉隆神父



九月十日、浦頭小教区出身の瀨口吉隆神父様が享年六十九歳で帰天しました。

昭和四十八年に司祭叙階した神父様は、神言修道会において主に長崎南山中・高教員、南山大学教員として、多くの時間を教壇に立たれていました。長きにわたって、生命倫理に関してキリスト教的視点から検証した書籍を執筆されております。

翌月の十月に浦頭教会で行われた追悼ミサ内で、弟である末明神父様が、病と向きあってきた彼が最期は延命処置を望まず、安らかに迎えた事、故郷の椎の木山の写真を見て微笑んでいた話しが印象的でした。

# ふるさとだより

## 民宿を始めて

濱崎松一

「おくうら夢のまちづくり」の一環として、二十六年度より民宿事業を始めるので、協力をお願いしたいとの協議会役員よりの依頼を受け、やってみますかということになりました。二人供、七十才を過ぎて足腰も弱くなり、また体験型ツアーとなると、とても無理です。と言ったんですけど、役員の皆様方が協力してくれるので、宿だけでも結構です。から、ぜひお願いしたいとのことでした。それで自分たちの出来ることだけでも協力すべきでしょう、ということに引き受けることになりました。

私たちは第二回目、二十七年二月十四日～十五日から引き受けることになりました。お客様は長崎市から、六十～七十代の四名のおば様方でした。メインは十五日の「奥浦まぐる祭」へ

の参加でした。十四日は、戸岐の防波堤での釣り体験。その日の夕食は自分たちで釣りあげた魚で、自分たちで準備することになっていました。釣りあげた魚は小さいものばかりで、あまり成果はかんばしくなかったようです。それで、少々不安だったようです。

ところが、次男がまぐる、みな、貝などを持ってきてくれたので、夕食づくりはみなさんそれらもう大張り切りで、サシミをつくる者、揚げる者、にぎり寿司をにぎる者、ダンゴを作る者、まあ、にぎやかなこと。

食事になると、ますますヒートアップ。時がたつのも忘れていました。

翌日は、奥浦海鮮直売所での「まぐる祭り」。たっぷりの「まぐる丼」で大満足だったようです。

おかげ様で、無事民宿の初仕事を終えることができました。関係者の皆様に感謝!!

## ダやけを背に受けて

木口未優

高校時代、マラソン大会で「きつい、辛い」と文句を言いながら走った6km。そんな私が21kmという想像もできなかった(したくなかった)距離を完走することができました。しかも、走る前に味わった何とも言えないドキドキ、走っている時の疲労感、爽快感、そして達成感。幸せな時間だったなあと思います。来年も：走るかどうかはまた考えます。あたたかな声援を送ってください皆様、本当にありがとうございました!!



一ダやけマラソンゴールの瞬間一

## 編集後記

夏が過ぎ、時は運動シーズンに突入。若いも若きも血潮みなぎらせ、筋肉を躍動させる。小学生も一年ぶりにバットを持ち、グローブから球の感触を味わっていたのだが、日頃楽しんでいけるスポーツと何かしら違うなと体が感じとったのか、何年ぶりの肉離れを起こしてしまった。すぐ同伴を呼んで、先輩からダッコされて車に乗って、病院に直行した。「まー。二週間ぐらいで治るでしょう。」自宅の庭から家族が肩をかかえて、家に入れてくれようとするが、ピンピン神経にさわって、「よかつ。はって行く。」

動けないと、ただ歩けるだけでも幸せなんだなあ。と健康のありがたさを真に感じる。これからも、大地の熱を感じながら、額に汗して、体を動かせる喜びを感じたい。木口 重憲

